

目次

- 政友会新潟縣支部の会合 [十一年一月十日] 02
- 民政党新潟縣支部 [十一年一月十五日] 02
- 第六十八期議會解散 [十一年一月二十一日] 02
- 第十九回衆議院議員選挙 [十一年二月二十日] 02
- 第三十三次廣田内閣成立 [十一年三月九日] 07
- 有田八郎外務大臣となる [十一年三月三十一日] 07
- 山本悌二郎 衆議院議員を辞す [十一年十月十四日] 07
- 佐渡政友倶楽部の幹部総辞職 [十一年十月二十三日] 07
- 民政党新潟縣支部の大会 [十一年十二月] 08
- 本間瀬平の縣會議員失格 [十二年一月十四日] 08
- 第三十四次林内閣成立 [十二年二月三日] 08
- 衆議院に於ける北吟吉の質問 [十二年二月二十四日] 09
- 土屋六右衛門の逝去 [十二年二月九日] 09
- 第七十期議會の解散 [十二年三月三十一日] 09
- 北代議士民政党に入党す [十二年四月七日] 09
- 第二十回衆議院議員の総選挙 [十二年四月三十日] 09
- 第三十五次近衛内閣（第一次）成立 [十二年六月一日] 11
- 縣会補欠選挙 [十二年六月十五日] 11
- 北代議士の検挙 [十二年] 13
- 山本代議士の表彰 [十二年七月二十六日] 14
- 佐渡政友倶楽部の大会 [十二年十一月十八日] 14
- 對英同志会の大演説会 [十二年十一月二十二日] 14
- 民政党縣支部の大会 [十二年十二月十三日] 17
- 山本悌二郎 薨去 [十二年十二月十四日] 17
- 有田八郎の勅撰議員 [十三年二月二十日] 23
- 政友派の会合 [十三年三月三十日] 23
- 山本悌二郎 無言の帰郷 [十三年四月十二日] 23
- 山本悌二郎の追悼際 [十三年四月十四日] 24
- 有田八郎の歓迎会 [十三年四月十四日] 24
- 佐渡タイムスの廃刊 [十三年五月三十一日] 24
- 本間雅晴の昇進 [十三年七月十五日] 24
- 嵐城治作 死去 [十三年七月二十七日] 24
- 有田八郎 再び外務大臣となる [十三年十月二十九日] 24
- 政友倶楽部の秋季大会 [十三年十一月三十日] 24
- 山本悌二郎の慰靈祭 [十三年十二月十日] 25
- 佐渡に於ける山本の追悼会 [十三年八月二十八日、十二月十四日] 25
- 新潟に於ける山本の追悼会 [十三年十二月二十一日] 26
- 第三十六次平沼内閣成立 [十四年一月四日] 26

- 佐渡政友倶楽部春季総会 齋藤長三初代会長となる [十四年五月五日] 26
- 政友倶楽部の委員会 [十四年五月十四日] 27
- 政友会新潟縣支部 分離の兆見 [十四年五月三十日] 28
- 立憲養正会総裁の来郡 [十四年六月二十日] 28
- 北吟吉の渡欧 [十四年八月～十一月十七日] 28
- 第三十七次阿部内閣成立 [十四年八月三十日] 28
- 中川健蔵 大日本航空株式会社総裁となる [十四年八月二十一日] 29

佐渡政党史稿

昭和政党之巻 第四号

自昭和十一年 至昭和十四年八月

○昭和十一年

●政友会新潟縣支部の会合 [十一年一月十日]

岡田内閣は絶対多数を擁する政友会の反対により政府政策の遂行覚束なく休会明けの議会には解散の憂目は免れざるべしとは朝野の斉しく唱ふる処にして當の反対野党たる政友会は勿論の事なれば政友会新潟縣支部にては此選挙対策を兼て春季大会を十一年一月十日午後一時より新潟イタリア軒に開会した
出席者は所属代議士縣會議員黨員等約二百余名 松木代議士の開会の挨拶について丸山嵯峨一郎を座長となし役員改選の結果は、総務は総て重任とし顧問に山本悌二郎、大滝傳十郎の二人を推し 幹事には縣参事会員の外、相沢成治、児玉竜太郎の外十三人（氏名略す）と決定したる後、選挙対策を凝議し終つて田辺代議士の中央政況の談話ありて二時三十分閉会した

●民政党新潟縣支部 [十一年一月十五日]

十一年一月十五日民政党新潟縣支部は新潟新聞社楼上に於て午後三時より大会を開きしに出席者百三十余名、顧問 野沢卯市議長席に着き、宣言（不明）決議を議了し役員選挙を行ひ午後四時散会した

決 議

政府は即時解散を奏請すべし

此大会に於て野沢卯市は常任顧問に就任した

●第六十八期議会解散 [十一年一月二十一日]

九年七月八日成立した岡田内閣は十年十一月第六十八期議会を招集したが野党たる政友會議員の絶対多数なりしを以て政府政策の遂行を懸念し休会明けの十一年一月二十一日岡田首相の施政の方針及廣田外相の外交演説□□演説終了□□解散した

●第十九回衆議院議員選挙 [十一年二月二十日]

第十九回衆議院議員選挙は十一年二月二十日執行することとなるが今各政党の動静を左に記さん

○民 政 党

民政党にては野沢卯市は立候補せざることに決心し居たれば他に佐渡より立候補するものもなければ、新潟又は西蒲原より立候補せしむべく其候補は縣支部へ一任の有様にて支部にて物色中なりし処、本郡両津町出身の北吟吉が立候補せんとてへの交渉方を小木の塚原徹へ申来り 塚原は土屋六右衛門へ送りたりとて土屋より野沢へ申来りたれ共 野澤を始め縣支部の幹部には北を知れる者なきを以て支部幹事長なる桑野確治を擁立せんとの説あり協議中の処へ政友会の名畑清次は昨年縣會議員選挙の際民政党へ二人を譲りたる因縁もあれば今回は政友の山本を支援せられたしと野沢へ申込み来りたれ共 野沢は前約により立候補せざれ共 他の者までも抑止することは出来ぬが今民政党にては幹事長の桑野を出馬せしめんとせるに又北吟吉の懇望もあり此二人の中何れか可なるやと云ひしに名畑は思ふに桑野は幹事長の要職にあれば相当の勢力を有すべきも、北は佐渡人として知られざるもの多からん 況んや新潟、西蒲原に於ておやと考へ是非候補を立てざる可なるものならば北を立てよとの意見を述べ 又一方土屋は自ら保証の位置に立つて頻りに北を承認せんことを要望したるを以て野沢は遂に北を先づ中立として立候補せしめ民政党之を援助せんととの決心をしたのである

爰に於て北の立候補に對して極力援助を與て當選せしめたのである

○政友会

政友会にては昨十年の縣會議員選挙の際、名畑、須田等は齋藤を東京に電招して今回の選挙には民政党にては候補を立てず山本を援助するといふ条件の下に民政党に県會議員二人を譲らんととの協議を為したることなれば山本は無敵當選と信じ居りたる処へ世評様々にて桑野と云ひ 北と云ひ政友会反対候補を立て民政党之を援助するといふ事なれば驚き一方ならず折柄病床に呻吟つゝありし齋藤は殊に山本の選挙事務長たる名畑へ再三の書面をもって注意を與へたれば名畑も野沢に交渉を試みたるも(民政党の記事にある如く)桑野か北かを立てしめざる可らざることとなり遂に北の立候補を認めざる可らざることゝなつた

時に山本は政友会本部委員として本部に在つて党務に奔命しつゝある傍ら同志の應援の爲め各地に転戦しつゝありしが二月十三、十四の両日は新潟及西蒲原郡を遊説し十五日午前二時特別仕立の佐渡丸にて六時兩津に着し一時小憩の後、十時より加茂小学校に於ける演説を第一部とし尔来十七日迄郡内各地の演説を終るや其夜一時出船渡航し十八日は富山縣高岡及兵庫縣丹波に、十九日は大阪にて大獅子吼をなした 此時東京より山本應援の爲め男爵 中川良長、日大教授 仲木貞一、林学博士 上原敬三、蓮見松寿、荻生五郎等来り、佐渡の弁士を加へ三班となつて郡内を遊説した

此時民政党の少壮幹部 木村栄次は二月七日突如として反對党たる山本候補のため第三者運動としての應援演説に立つべき旨を声明して各地の言論戦に加はつた

○北派

北吟吉は本郡兩津町湊の人にて久しく東京に住せるが普通選挙法の実施となるや佐渡より討つて出んかとの考へも持ちたれ共 当時 山本悌二郎農林大臣の折なれば故 本間一松(北の叔父にして政友会の人)よりの申越しの次第もありて断念し第十七回には東京府第五区より中立を標榜して立候補せるも不幸落選し第十八回には外遊不在なりしが今回即ち第十九回には各方面よりの勧誘もあり且つ自己の後輩にて政界に入りたるため相当の位置をため居る者もあれば今度こそはと云ふ考へより断然立候補することゝなりたるのである

時に政友会の齋藤長三は「山本の議席を占むること已に十回、政争の最も烈しき佐渡の民政党としては怨み骨髓に徹して居るのであるから如何なる手段方法を用いるも之を落選せしめんと種々の悪宣伝を為し

て居る而も山本は当時家産稍傾き所謂逆境の地位に立ち多少人心に飽かれ居るの折柄新進気鋭の北と戦ひ萬一落選する時は老齡山本晩年の花を散さんは遺憾と考へ」一書を北に送って其意志を翻さんことを希ひし処、長文の回答を寄せられた、之を読めば北の心事が明らかなるが故に冗長を顧みず要点のみを爰に掲ぐることにした

(前略) 普選第一回の時佐渡より立候補せんかと思ひしも山本先生当時大臣にて、大臣の時に帰郷して政戦は欲せずとの意向あり又本間一松よりの申越しもあり(本間は政友会員にして北の叔父なり)野沢や故山田氏(山田辰之進)の應援ありとも抱らず断念し、第二回の際は武田徳三郎氏(政友会員にして本縣第四区選出代議士なり)より山本先生後援の下に高田方面より政友候補として立候補することを勧めらしも断はりて東京第五区より中立として立候補して落選せしが第三回の際は考ふることありて選挙を後に外遊致し候(中略)然るに今回は東京の佐渡青年も佐渡の青年も、小生に立てと懇請し、土屋老、松瀬君も両津町の融和、佐渡の発展のため小生ならばよからんとの意向あり野沢氏も哀心より小生を支持する考へとなり居るらしく(中略)民政本部も縣支部も小生の民政入党公認を熱望するも佐渡には政友に親戚関係多く、湊の父(北の父)の系統の政友、河原田の高橋(政友会の首領高橋元吉、北と親戚、故人である)の系統の政友、新穂の本間(本間一松、前に書いた)の系統の政友、及貴殿等、に民政候補として対立するは不本意なれば飽迄中立として起ち将来郷土の爲めに努力して一島一党なるを理想と致し候 比較的の小生に縁故薄き民政はより推し来るは山本先生政友なるが爲めに止むを得ざる運命かと存じ候

山本先生大臣の時困ると云ひ(拙者の手紙に対していふのである)逆境の時困る(前に同じ)と仰せらるれば小生は永久政界を断念すべきこと、相成り候

早稲田の小生の後輩すら次官となりし者三名あり參與官あたりは一ダース以上、弟子にても三回当選の者有之次第にて山本先生の資力と声望なかりせば小生も政党に相当飛躍某(特に名を秘す)位の地位は得たるやも知れず候、小生の山本先生に遠慮せるは一に故本間及貴殿等に顧慮せるために候(中略)小生も本年五十二歳となり某々等に比して劣れりとは信ぜざるも威望ある山本先生健在なりし為め政治的には不遇の方に候 従つて貴殿の山本先生御同情論は一應情理兼ね備はるも小生の立場にも御諒解願上候(中略)

小生当選には便利なることを知りつゝ民政入党もせず公認をも断はり 更に党よりの金銭的援助も受けず隠れたる友人の援助の下に、法定額以下の資金を調達し得らるゝのみに候 之れにても應援するといふ佐渡及第一区有志のあること、ならば立候補は止むを得ざる形勢かと察せられ候 併し應援者の誠意如何を觀望中に候間未だ立候補の供託はなさず待機中に候(下略) 一月二十七日

前にも記したる通り民政党が支援すること、なりたるを以て愈々立候補すること、なり松瀬教五郎を事務長とし 事務所を湊の自宅に設立し東京よりは下位善吉、武田豊四郎、其他地名の士を招き自身陣頭に立って細に入り微に入り郡内洩れなく言論網を曳いた

○縣下郷軍の決議

新発田聯隊区管内在郷軍人会議は二月八日午前十時より新潟市役所楼上にて開かれ 三市八郡の分会長二百三十余名出席、聯隊区よりは今泉司令官、玉木副官、縣よりは土肥警察部長臨席、選挙肅清の会合と云ふ名目で開かれ劈頭今泉司令官は訓示として、天皇機関説の排撃、國體明微を強訓した上、今回の選挙に如何なる人を選ぶべきかとして

- 一、 國體觀念の最も旺盛にして至純至忠憂国高潔の人物なる事
- 二、 國體觀念を透徹せる人物なる事

などの条件を挙げて徹底的に論じ左の如き決議を為した

決議

吾人ハ此ノ希有ノ非常時ニ當リ苟モ反軍的言動ヲ弄スル徒輩ハ断固トシテ排撃スルト共ニ今次ノ総選挙ニ際シテハ軍人精神ヲ發揮シテ公正ナル選挙権行使ノ範ヲ示シテ真ニ優良議員ノ選出ニ努メ、立憲政治ノ素地ヲ固ク愈々国防ノ強化ヲ謀リテ皇道日本ノ國威ヲ宇内ニ宣揚センコトヲ期ス

昭和十一年二月 新発田聯隊区管内在郷軍人

折柄政戦の真最中で而も第一区からは國體明微を看板とする山本悌二郎が立候補して居る際でもあり見様に依つては選挙違反になる恐れがあるといふので俄然問題となり 土肥警察部長は同日午後三時玉木副官の出縣を求めて不穩と思はれる字句の削除方を要望した

右に対し今泉司令官は縣警察部の要求を断固として一蹴し左の如く述べた

天皇機関説の排撃や國體明微の問題は全郷軍の聲である、某候補がどんな政見を發表しようと我々の関知した處ではない、我々の要求を發表するのに何の差支がある、第一区から某といふ人が立候補して居るから天皇機関説や國體明微を論議することが悪いといふ理屈はあるまい、苟も軍人の名に於て一旦決議した事を今更取り消したり訂正したりすることは断じて出来ない云々

此問題も夫切りになって字句の削除も訂正も何もなく其儘になってしまった

斯て政友が無敵当選と見たる夢は破れて中々の激戦となり 兩派入り乱れての奮戦突撃の結果は左の通りであるが双方に相当の怪我人を出した

当選	二〇、七六五票	(政友会)	佐渡郡	山本悌二郎
	一八、八〇一票	(中立)	同	北 吟吉
	一四、九六九票	(民政党)	新潟市	松井郡治
次点	一二、八一五票	(政友会)	西蒲原郡	田辺熊一

北は当選後、間もなく頼母木、永井、大麻等の紹介にて民政党へ入会したが少数党にては議会に於て自己の意見が行はれざると、民政党の支援に依つて当選したるとの二つの理由によってである
党派の如何を問はず小さき佐渡ヶ島より二人の代議士を出したのであるから佐渡人の喜びは格別であった

第一区に於ける投票数は左の通りであった

町村名	山本悌二郎	北吟吉	松井郡治	田辺熊一
相川	932	477		
二見	399	170		
沢根	381	262		
河原田	235	244		1
八幡	160	169	1	
二宮	368	425		
金沢	710	463	3	
吉井	421	442	5	
新穂	658	608	9	
畑野	713	573	8	
真野	864	385		1
西三川	341	281		
小木	731	381	1	
羽茂	710	368	1	
赤泊	303	676		5
松ヶ崎	150	210		
岩首	173	132		
水津	100	192		
河崎	480	586	7	
両津	527	878	10	1
加茂	328	720	1	1
内海府	69	116		
外海府	213	213		
高千	478	478	1	
金泉	438	438		
計	10,766	9,712	47	9
新潟市	6,695	2,386	11,608	1,605
西蒲原郡	3,189	7,038	3,306	11,200
合計	20,765	18,801	14,967	12,815

此選挙に於ける本縣の当選者は左の通りである

第一区	(政) 山本悌二郎	第三区	() 大竹貫一
	(中) 北吟吉		(民) 内藤久一郎
	(民) 松井郡治		(無) 三宅正一
第二区	(民) 小柳牧衛		(政) 山田又司
	(政) 松木 弘		(民) 佐藤謙之輔
	(民) 佐藤與一	第四区	(政) 武田徳三郎
	() 高田忠弘		(民) 川合直治

() 増田義一

此選挙に於て双方より相当の怪我人もあつたが其重なるもの掲ぐれば

北派にては選挙事務長の松瀬教五郎を始め両津町町長 土屋六右衛門、同収入役 若林万吉、同町会議員 伊藤次郎、同 正司司文、同 渡辺四郎次、齋藤八郎平及小木町 塚原徹 相川町 井上栄吉等、又山本派にては事務長の名畑清次を始め加藤平蔵、富崎五作、名畑耕治、坪根舒治等は選挙違反として検挙されたが取調べの結果両事務長は禁固の言渡しを受けたれ共 執行猶予となり、他は不起訴、起訴猶予、罰金刑夫々処分された

本郡出身にして此選挙に立候補して当選せる者は牧野賤男の東京府第五区にて二万七千五百八十三票にて是れで第四回目の当選である

●第三十三次廣田内閣成立 [十一年三月九日]

十一年二月二十六日午前五時頃一部青年将校は首相官邸其他を襲ひ 岡田首相逝去せるを以て二十七首相代理内務大臣 後藤文夫は各閣僚の辞表を取り纏め陛下に提出したれば 三月五日大命は外務大臣廣田弘毅に降下し九日成立して親任式を行ふた

(因みに岡田首相の逝去は誤報であつた 一時即死と伝えられておつた 然るに数日後に突如として顕はれ来り無事であつたとのことである)

内閣総理大臣	廣田弘毅	外務大臣	廣田弘毅 (有田八郎)
内務大臣	潮恵之輔	大蔵大臣	馬場銑一
陸軍大臣	寺内寿一	海軍大臣	永野修身
司法大臣	林頼三郎	文部大臣	兼 潮恵之輔
農林大臣	島田俊雄	商工大臣	川崎卓吉
逓信大臣	頼母木桂吉	鉄道大臣	前田米蔵
拓務大臣	永田秀次郎		

●有田八郎外務大臣となる [十一年三月三十一日]

廣田内閣成立の当時外務大臣は有田八郎と決定したれ共 [中華民] 國駐在大使なりしを以て召電し帰朝を待つて三月三十一日任命した

●山本悌二郎 衆議院議員を辞す [十一年十月十四日]

十一年二月執行されたる第十九回衆議院選挙に於て当選したる山本悌二郎の選挙事務長たりし名畑清次等が選挙違反として検挙せられ審理中にて未だ罪跡判明せざれ共 自責の觀念強き山本は代議士を辞さんと決意し十月六日 須田春治を使節として本郡の同志者に傳へしめられたれば同志者は急遽会合して種々協議を擬したる上留任を懇請することゝなり 八日 齋藤長三、児玉竜太郎、本間瀬平の三人を上京せしめ慰留に努めしめられたれ共 彼れの性格として、熟慮の上にて決意したる事なれば翻意すべくもあらず同志者に対して厚意を感謝したれ共 辞表は十日を以て衆議院事務局へ提出したれば十四日付を以て許可された 山本の辞職するや次点繰上げにて田辺熊一が当選者となりたれば政友会の議員数には異動なかつた

●佐渡政友倶楽部の幹部総辞職 [十一年十月二十三日]

十一年十月二十三日 佐渡政友倶楽部は新町の山本別邸に幹部会を開きて上京委員より山本代議士辞任に

至りたるまでの経緯を詳細に報告したるが来会せる顧問、総務、幹事長も又責任上留任するに忍びずとして辞職の申合せを為し直ちに之を実行したが名畑清次は左記の廣告を出して政界を引退した

廣 告

自分儀多年政界に在りて政友先輩の驥身に附して指導を辱ふし特に今春の総選挙に際しては選挙区有権者各位の御声援を蒙り所期の目的を達し得たるは感泣措く能はざる処に候 然るに小生の不徳に依って今回山本代議士は突如衆議院議員を辞職せらるゝ事と相成候に就ては小生の立場としては此際潔く政界を引退して有権者各位並に政友諸先輩の恩誼に対し深謝の意を表し度 茲に謹んで紙上を以て御挨拶申上致此の如くに御座候 尚今後は一意実業方面に微力を傾注致度存念に候 何卒御指導と御援助を賜り度奏懇願候

昭和十一年十月二十三日

名畑清次

●民政党新潟縣支部の大会 [十一年十二月]

民政党新潟縣支部は十一年十二月 日大会を開催した
は詮衡の結果 支部長に選ばれた

○昭和十二年

●本間瀬平の縣會議員失格 [十二年一月十四日]

十年九月執行せる新潟縣會議員選挙に当選せし本間瀬平の選挙事務長 柴田繁外四名の選挙違反に伴ふ検事の提起せる当選無効附帯訴訟は十二年一月十四日東京控訴院に於て審理の結果 本間瀬平の当選は無効との判決を下された

●第三十四次林内閣成立 [十二年二月三日]

廣田内閣の内治外交に涉る税政に対し貴、衆両院の空気は極めて険悪にして第七十議会は全く八方塞がりの外交問題難詰の外 三十億円に餘る大予算案、大増税案、電力國家管理案、義務教育延長案等の重大案件を背負ひ政府は此度薄氷を履むが如き感がある、而して政府の意向としては予算の協賛と増税の通過に重点を置き 今議会を曲りなりにも切り抜ければ、延命には執着なく潔く総辞職に出づるものと見られて居たが、陸軍大臣寺内寿一と政友会代議士浜田國松との間に彼の有名なる「腹切問題」を惹起し 十二年一月二十一日の休会明けの第一日に於て浜田が大予算に対して質問演説を為したる丈にて議会は停会を命ぜられしが再開を待たずして解散を為さんとする寺内の説に對し海軍大臣 永野修身は調停せんとして穩健にして異議ある妥協工作を試みんとせるも卻けられて遂に総辞職を執行した

茲に於て大命は陸軍大将 林銑十郎に降下し二月三日林内閣が成立した

内閣総理大臣	林銑十郎	外務大臣	林銑十郎
内務大臣	河原田稼吉	大蔵大臣	結城豊太郎
陸軍大臣	中村孝太郎	海軍大臣	米田光政
司法大臣	塩野季彦	文部大臣 兼	林銑十郎
農林大臣	山崎達之輔	商工大臣	伍堂卓雄
通信大臣 兼	山崎達之輔	鉄道大臣 兼	伍堂卓雄
拓務大臣 兼	結城豊太郎		

●衆議院に於ける北吟吉の質問 [十二年二月二十四日]

北吟吉は十二年二月二十四日の衆議院予算総会に於て肅軍問題に就いて深刻なる質問の矢を杉山陸將に向け一時場内をして異常なる緊張におとしめた

一、二・二六事件発生の原因並に首謀者の思想的根源

二、陸軍関係学校の所在地ヲ地方ニ分散セシムル意向ハナイカ

三、宇垣内閣組織ノ際 中島憲兵司令官ガ上京途中ノ宇垣氏ヲ自動車デ捕ヘ大命拝辞ノ勸告ヲ為シタルト云フハ事実カ

●土屋六右衛門の逝去 [十二年二月九日]

十二年二月九日午前八時より両津町役場楼上に於て町是実行委員表彰式を挙行し 席上町の施政方針並に抱負等を披瀝して意気頗る軒昂なりし縣會議員両津町長 土屋六右衛門は翌十日夫人並に塚本房吉同伴四國霊場参拝のため出発したが途中非常に発熱せるため三条駅に下車し新潟に引返して桜井旅館に宿泊し元新潟医科大学口永博士並に東京より田島医師を迎へ診断を求めたる処 急性肺炎と言はれたが遂に十七日午前一時二十分逝去した

清廉謹直 町長在職二十餘年一意 両津町の為めに尽くす、町は哀悼の意を表し弔慰料金五千円を贈り二十一日両津小学校に於て町葬を以て葬儀を執行した、野沢支部長、松栄、高橋、両県議、黨員、其他各方面の有志者の会衆無慮二千実上空前の大葬儀であった

●第七十期議会の解散 [十二年三月三十一日]

寺内陸相と浜田代議士との所謂腹切問題に依て廣田内閣は総辞職を為し其後継として二月二日に成立したる林内閣は同十五日に至りて初めて議会を再開したが尔来政府提案の大部分は議会を通過せしめたるにも係らず政府は「現下の非常時局に当り政党未だ目覚めず國家の進運に重大關係を有する重要法案の審議状態は誠意を欠く」といふ理由を以て三月三十一日議会を解散した

●北代議士民政党に入党す [十二年四月七日]

初め北吟吉の第十九回の総選挙に立候補せんとするや、中立を標榜し居りたりと雖も民政党的の援助を受くべく塚原徹を通じて民政党的の土屋六右衛門の紹介を請ひ土屋と会見したる後、野沢の諒解を得て立候補し民政党的の支援を得て当選したのであるけれ共 姑く中立の態度を持し居りたりけれども少数党にては議会に於て其言動の行はるべくもあらざりしを以て四月七日頼母木桂吉、永井柳太郎、大麻唯男の紹介にて民政党的へ加入した

●第二十回衆議院議員の総選挙 [十二年四月三十日]

解散による第二十回の総選挙は十二年四月三十日執行さるゝことゝなつたが今政民兩派の内容を見れば即ち左の通りである

○政 友 会

佐渡政友俱樂部にては十二年四月十日午後三時より河原田山六旅館に於て来るべき衆議院議員選挙に対する候補の制定及昨十一年十一月十日の総会に於て委員に附託したる役員の詮衡をも為すべく役員全体會議を開きしに会する黨員百余名 北条欽座長となり児玉竜太郎県議起つて開会の挨拶を述べ 且つ過般上京山本總裁と会見せる時の状態を語り堂々政戦場裡に出馬すべき意志あることを伝達するや満場志気

大に揚くもの、如くであった

斯て詮衡委員は別室に於て委員会を開きたる結果 山本総裁を推薦することを報告すれば 萬雷の如き拍手を以て之を迎へ政戦に臨む今後の申合はせをなしたる後左記役員の報告があった

総務、佐藤一平、葛原吾市、長島善一郎、松村小八、後藤政次郎、本間操、加藤芳太郎、神主甚久郎、大倉辰次、宮本光雄、藤谷善藏、寺島善四郎

(後、本間、後藤、寺島、の三人辞任に付、加藤平藏、臼木栄作、菊池市左衛門の三人を以て補充した)

幹事長、児玉竜太郎

爰に於て政友会にては山本を候補として推薦状等を発送し言論戦には、東京より明大教授 赤津良穰、日蓮大教授 浜田悠、其他郡内の弁士を加へ大々の言論戦を開くことゝなつたが、然るに山本は政友会本部より北信へ派遣する遊説隊の主任となつて植原、武田、石坂、土倉、猪野毛の各代議士と共に出張し各地を巡遊して二十二日に帰郷し言論戦開催の予定の処 西蒲原郡の田辺熊一病気の為め候補を辞退したれば無投票の状態となりたるを以て演説の必要もなく、山本亦本部の招電に依て上京し二十五日来県して第二、三、四、区の應援に奔走した

○民 政 派

民政党にては北の立候補は不文的既定の事実にて、北は四月十五日来郡し下位春吉、八田三喜、水谷勝等を伴ひ両津を皮切りに言論戦を開始したれば共 田辺の候補断念により無競争となりたれば中途にて見合はせた

新潟市より松井郡治再び討つて出たのである

已に各派夫々陣營を整へ緒戦に就きたる折、西蒲原郡の政友候補者 田辺熊一は健康勝れず主治医より静養の注意ありたるを以て候補を断念したれば第一区の暗雲は俄かに明朗となつて投票を用いるの要なきことゝなり 則ち左の三人は無投票で当選した

政友會	(佐渡)	山本悌二郎
民政党	(同)	北 吟吉
同	(新潟)	松井郡治

此選挙に於て当選せる本縣の代議士は左の通りである

第一区 (無投票)	第三区 (無)	三宅正一
(政) 山本悌二郎	(國) 大竹貫一	
(民) 北 吟吉	(政) 加藤知正	
(同) 松井郡治	(民) 今成留之助	
第二区 (同) 高岡忠弘	(同) 佐藤謙之助	
(同) 佐藤與一	第四区 (政) 武田徳三郎	
(政) 松木 弘	(民) 増田義一	
(民) 小柳牧衛	(民) 川合直次	

此選挙に本郡出身の東京在住 牧野賤男は東京府第五区より立候補し二万五千〇二十二票にて当選したが 実に第五回目の当選である

●第三十五次近衛内閣（第一次）成立 [十二年六月一日]

第七十期議会に於ては前に記したる通り会議日数の短かゝりしにも拘はらず政府提出の議案は大部分通過せしめたるに政府は審議の状況誠意を欠くとの理由を以て議会を解散せしかば政友、民政の両党は猛然起つて林内閣打倒の運動を起し 鎧袖一触直ちに倒壊せしめた 二月二日に組閣して六月一日の瓦解で僅かに四ヶ月の運命であつた 爰に於て大命は近衛文麿に降下し直ちに後継内閣は組織された

内閣総理大臣	近衛文麿	外務大臣	廣田弘毅
内務大臣	馬場鑓一	大蔵大臣	賀屋興宣
陸軍大臣	杉山 元	海軍大臣	米内光政
司法大臣	塩野季彦	文部大臣	安井英二
農林大臣	有馬頼寧	商工大臣	吉野信次
逓信大臣	永井柳太郎	鉄道大臣	中島知久平
拓務大臣	大谷尊由	厚生大臣	木戸孝一

●縣会補欠選挙 [十二年六月十五日]

政友会の本間瀬平は事務長 柴田繁の選挙違反事件に連座して十二年一月十四日失格し、民政党の土屋六右衛門は十二年三月十七日病死した、其補欠選挙は六月十五日執行することゝなつた

○民 政 党

民政党俱樂部にては六月一日河原田町江戸屋に会合し本間和平座長となり、候補者は南北の両郡及国仲としての議論ありたるを以て前回の例に倣ひ一警察署管区より二名づつ委員を挙げて詮衡せしめたる結果高橋幸吉を挙ぐる事となつた

○政 友 会

政友会の本間は事務長の選挙違反に連座して失格したるものなれば同人を再選することは理論の上に於ても徳義よりも至当なりとの議論は党の内外を問わず等しく唱へたる処でもあつたが 五月三十日河原田町山六旅館に開きたる候補選定会にも羽茂方面より出でたる人々は頻りに此説を唱へたれ共 多数説によりて破れたのである 当日は北条欽を座長とし協議を擬したるが児玉竜太郎が再起の念強く自己を支援する各町村の多数黨員を出席せしめ従来例になき処の幹事の多数決を以て児玉の立候補と決定した、然れ共羽茂方面の人々は容易之れに應ぜざれば「事選挙に關することなるを以て萬一当选なし能はざる時は」との懸念より児玉は新潟より歸りて相沢成治をわざわざ羽茂に出張せしめて本人の本間を拝み倒しにしてシブシブ児玉の候補を決定した

(因に記す、齋藤長三は四月十五日、県會議員選挙違反のため禁固三ヶ月に処せられて収容された、其刑務所に行かんとする時新潟まで見送られた渡部嘉作に託し、又刑務所内にありては書面を以て富崎五作氏に託し、共に児玉に「本間氏は連座失格の事なれば補欠選挙には本間氏を推し 君は其選挙事務長となるべし 然るに時は人心自然君に集まり来るべき定期改選には本間氏が必ず君を推挙するに至るべし云々」の書面を贈つたけれ共 児玉氏は遂に之を用いなかつた、本間氏に対し一掬同情の涙を注ぐと共に児玉氏の人格上惜まざるを得ない、実に遺憾千萬である)

○無 産 党

社大党にては六月四日新穂町丸喜館に於て協議会を開きしに

政民両党は連携して無競争を工作し、郡民大衆に参政権を行使する機会を奪はんとする形勢なり

しを憤慨し満場一致を以て支部長 後藤奥衛を立候補せしむることに決定して左の立候補宣言及政策を発表した

親愛なる勤労大衆に訴ふ

縣會議員候補者 後藤奥衛

今回私が不肖をも省みず、資金難、手不足等の不利な条件を忍んで立候補致した理由は左の通りであります。

- 一、政民両党は今回も亦無競争をたくらみ、われわれに与えられた貴い参政権を行使する機会を奪はんとした。いつまでも此の如き状態が続けられるならば佐渡の民衆は永遠に、政治に縁のないものとせられ、縣民の正しい意志を代表する縣政は全く不可能といはねばなりません
- 二、現在の新潟縣会は四十九名の議員中、働くものゝ代表として選ばれたものは僅かに三名にしかすぎません、従って新潟縣の縣政は終始一貫、金持本位に出来て居ります。私は縣民大多数を占める勤労の大衆の利益のためにかゝる不合理な縣政を打破したいと思ひます。
- 三、今や日本は革新の時代であります、然るに、之れが革新は腐敗墮落せる既成政党に依て行はれず、また五・一五事件や二・二六事件に現はれたような暴力的手段によって行はれるべきではありません。我々は飽迄國民全体の意志を尊重し、國民全体の正しき批判の上に、合理的に改革を行はねばなりません。其為めには、勤労議會政治の建設をめざして戦つてゐる社会大衆党の力を充分に伸ばすことが必要であります。私は其土台石の一つとなって戦ひたいと思ひます。

以上の精神を以て立候補致しました。微力ながらも私は佐渡に於ける働くものゝほんとうの代表たる自覚のもとに戦つて居ります、私の心情を御察しの上是非とも支持あらんことを願ひます。

社会大衆党縣会の政策

- 一、知事を公選にせよ
- 一、知事原案執行権廃止
- 一、縣会の解散権を県民に与へよ
- 一、特別地稅、營業稅、家屋稅、諸車稅の廢止
- 一、電柱稅、金庫稅、遊興稅の増徴
- 一、別莊稅、邸宅稅、庭園稅、不在地主稅、特別利得稅の設定
- 一、地主、資本家本位の補助金政策の廢止
- 一、産米検査の改正と農民へ補償米給與
- 一、中等学校を無産階級子弟へ開放せよ
- 一、土木事業を直営として失業救済を行へ
- 一、実費診療所、無料産院の設置
- 一、工場法を嚴重に適用して労働強化の防止と賃金の値上げをはかれ
- 一、窮乏農山漁村に附する飯米払下
- 一、中小商工工業に対する無担保融資
- 一、農山漁村の生活保証

而して三宅正一、野溝勝の両代議士及全國農民組合縣聯合會會長 稲村隆一、縣會議員 井伊誠一、同 石田宥全、同 井上乙吉、長岡市會議員 清沢俊光、高田市會議員 沼田政次等の應援を得て全郡に亘り六十数回に及ぶ言論戦を展開し勤労大衆に訴へた

○

政友、民政の両党は社大党より候補者の出づるなどゝいふことは夢にも思はず無競争当選の狸算用なりし

処へ後藤が突然立候補し 然かも其應援には各方面の名士が来りたることゝて両党にても新潟、中央等より夫々弁士を招き寄せ補欠選挙としては再び見る能はざる位の激戦となりしが其結果は左の通りにて後藤は落選したれ共 初陣第一回に於て三千余票を獲得したれば敗れて又悔いなき実に花々しい戦績といふべきである

当選 六四七六票 (民政) 加茂村 高橋幸吉
 四八〇一票 (政友) 相川町 児玉竜太郎
 次点 三〇四四票 (社大) 新穂村 後藤奥衛

各町村に於ける各候補の得票は左の通りである

町村名	高橋	児玉	後藤	無効
相川	265	646	171	22
二見	37	196	31	7
沢根	181	225	55	5
河原田	149	126	71	4
八幡	81	66	43	
二宮	276	164	87	9
金沢	214	213	168	5
吉井	324	156	162	13
新穂	289	131	768	12
畑野	482	287	229	8
真野	370	402	127	17
西三川	222	154	56	7
小木	309	402	105	30
羽茂	177	191	213	36
赤泊	436	81	205	17
松ヶ崎	124	94	62	6
岩首	101	102	25	12
水津	129	56	25	2
河崎	360	168	92	12
両津	666	287	159	14
加茂	844	62	70	12
内海府	86	30	1	
外海府	37	137	9	1
高千	252	238	68	19
金泉	88	184	42	4
合計	6,476	4,801	3,044	274

●北代議士の検挙 [十二年]

二・二六事件を契機として東京憲兵隊では内務省、警視庁等と連絡を取り所謂怪文書の取締を厳重にして居た処最近又々怪文書が巷間に流布されて居るので徹底的其根源を絶つべく内偵を行った結果 本郡選出

民政党代議士 北吟吉も其関係あるものとなし 北を始め大化会の岩田富美夫等 数名を検挙した
此日 北は起床して読書して居た午前五時頃自動車で駆けつけた憲兵に同行を命ぜられたれば 彼れは少しも動ずる色なく「デハー一寸食事をして来ます」とて朝食をすまし、パナマ帽に紺の背広、白靴、黒檀のステッキといふ瀟洒な出立にて七時過ぎ同行された、其時彼れは語った

選挙違反其他不審を受ける心当りはないのだから萬一あるとしたら不穩文の事だらう、夫も僕は受取った事は受取ったが、前に議会の問題にしようと思ふて軍部、政界の上層の人に見せただけで出版も頒布もして居ないのだから夫を追求されることはあるまい云々

●山本代議士の表彰 [十二年七月二十六日]

十二年七月二十六日、山本悌二郎は明治三十七年三月始めて衆議院議員に当選以来三十年と二ヶ月在職せる為め院議を以て表彰された

表 彰 状

議員正三位勲一等 山本悌二郎君衆議院議員ニ当選スルコト十一回在職三十年ニ及ビ恒ニ憲政ノ為メニ
尽力シ民意ノ暢達ニ努ム衆議院ハ君ガ積年ノ功劳ヲ多トシ特ニ院議ヲ以テ之ヲ顕彰ス

昭和十二年七月二十六日

衆 議 院

●佐渡政友倶楽部の大会 [十二年十一月十八日]

佐渡政友倶楽部は十二年十一月十八日午後三時より畑野松月亭に於て秋季大会を開き 児玉幹事長の挨拶ありて齋藤長三を座長に推し 会務報告ありたる後 宣言を可決し役員の改選を為して左の通り決定した

幹事長 坪根舒治

総 務 藤谷善蔵 加藤平蔵 加藤芳太郎 白木栄作

金子徳次 佐藤一平 長島善一郎 大倉辰次

神主甚久郎 松村小八 菊池市左衛門 宮本光雄

本間瀬平 後藤惣作 椎 亀治

●對英同志会の大演説会 [十二年十一月二十二日]

對英同志会が主催となつて十二年十一月二十二日代議士 山本悌二郎は其同志と共に日比谷公園公会堂に、又二十七日には芝公園に國民大会を開き對英大演説会を催ふして彼れは大獅子吼を為して其意見を發表して左の如き宣言決議を可決した

彼れが同志者と謀つて對英同志会を組織したのは、感情論で英国を排撃せんとする排英論ではないのであつた、其要旨には二つある、其一つは、英国が対日反對の国策を先づ定めたのである

キャンタベリー大僧正、是れは総理大臣よりも高い地位の國家の公職である、此大僧正が幾萬の会衆を集めて、対日經濟制裁並にポイコットを決議させ。之を全英國は勿論世界に傳へたのである

彼れ山本等が排英運動を起したのは之れに対する当然の反撃である

今一つは國民に対して、日支事變の相手は支那ばかりではないぞ、非常に大きな力が支那の後ろに働いているから之れに対し日本國民は非常に徹底せる覚悟を要する、即ち事態の深刻さを國民に知らしめて國民の覚悟を促し、一面其後ろに隠れて居る大きな力の英國に対し其反省を促したのである、之を今少し詳細に云ふならば

大正四年英國政府は大隈内閣の当時日本政府に對し「日本と相談せずして支那政府に対して政治的交渉は開かぬ」と云ふ契約があるのでワシントン會議までは忠実に守つて来た

が、其後英國は日本を対象とし若しくは日本を排斥し日本を除外し政治的指導権を支那に対して有し之を運用せんとするの政策を此数年来実行しつゝあることが今日の日英関係の不快化の病因となつたのだ、今日所謂東亜に於ける新秩序の達成といふことは英國が大正四年の契約の趣旨に復活し之を實際化すれば夫でよいのだ、其立場に還らせたいといふことが対英同志会の運動の標的であるのだ、決して感情的の運動ではない、大僧正の言動に対する当然の反撃であり、英國の行動に対する当然の反撃であるのだ、大会に於ける宣言、決議は左の通りである

宣 言

支那ヲ容共抗日ノ迷夢ヨリ覺醒セシメ速ニ東洋ノ平和ヲ確立セントスル皇軍今次ノ聖戰ニ際シ英國ガ南京政府ヲ其傘下ニ擁蔽シテ所謂長期抵抗ノ揚言セシムルノ理由那辺ニ在ルヤ明ナリ

英國ハ西欧ニ於テ独伊ノ飛躍的進出ニ驚愕シ東洋ニ於テ旭日昇天ノ勢威ヲ以テ躍進嚮往スル皇國日本ノ雄姿ニ瞠目狼狽シ蔣政権ノ没落ヲ救ヒ日本ノ躍進ヲ抑ヘ以テ多年不法ニ獲得セル独占的權益ヲ維持セント焦慮シ是ガ為メ本國ニ在リテハ朝野挙テ反日ノ言論ヲ宣伝シ以テ世界ノ輿論ヲ惡化セシメント企圖シ現地ニ於テハ南京政府ニ資材武器ノ供給ヲ始メ財的援助ニ努力スル等陰ニ陽ニ凡ソ中立國トシテ有ルマジキ行動ヲ執リ益々援支抗日ニ熱中シ更ニ進ンデ米國ヲ誘ヒ國際聯盟ヲ動カシ竟ニ九ヶ国会議ヲ開催セシメ以テ吾國ヲ牽制圧迫セントスルニ至レリ

吾國ハ日英同盟當時ヨリ旧誼ヲ重ンジ忍ブ可ラザルヲ忍ンデ今日ニ及ベルモ事茲ニ至リテハ最早是位トノ雅量ヲ保ツ能ハズ吾人同志ハ去ル十月三十日ヲ以テ始メテ英國戒飾ノ第一声ヲ挙げタリト雖モ尚英國態度毫モ改悛ノ痕ナシ 爰ニ吾人同志ハ奮然起ツテ此抗日ヲ援助シ赤化ヲ助長シ飽クナキ自國ノ貪欲ノ為ニ東洋平和ノ確立ヲ阻礙シテ顧ミザル第三假想敵國タル英國ニ對シ國民大衆ト共ニ斷固タル態度ヲ取ラントス

決 議

- 一、既往数十年ノ親英主義を一擲スベシ
- 二、國內一切ノ親英使節ヲ廢止スベシ
- 三、對外經濟關係上倫敦依存ノ修整ヲ脱却スベシ
- 四、對支援助ノ牙城タル香港ヲ嚴戒スベシ
- 五、今次事變ニ關シテハ斷ジテ英國其他ノ介入ヲ許サズ

昭和十二年十一月二十二日

對 英 同 志 会

日支事變に対する英國の行動に就ては國民一般の最も遺憾とする処なるが中にも山本悌二郎は英國が裏面に在りて支那を援け日本を苦しめあるを憤り 同志者と決然起つて對英同志会を結成し其事務所の表札は自邸に掲げて、廣東攻すべし武漢略すべしと満身の血を涌かし焰々たる世間の恐英思想を打破し親英主義に一大痛棒を加へて朝野官民に一大覺醒を促した

思へば此對英同志会は彼れが晩年に於ける最後の活動にして最も華やかかなりしところで殊に其運動の爲め旅装を整へ將に自動車に乗らんとして逝きて帰らざる如き態度は武士の戰場に倒れたると同一にして最も壮烈なる最後と云はねばならぬ 君國の爲め戰場に華々しき最後を遂げたる皇軍將士と毫も変らぬので其突然の薨去は一入社会の人心を打った、コハ是れ後の話である

彼れが日比谷に於ける演説即ち彼れが最後の演説は左の通りであつた

今次事變は、其端を蘆溝橋の支那兵不法射撃に発し、次で上海に於ける執拗なる排戦行動、此限りなき暴状に對し、帝國は止むを得ず立つたのである。

武士は容易に腰の刀を抜くものではない。併し一度是を抜けば徹底的に敵を粉碎し尽くすまでは鞘に納

めないのである。帝國今回の軍事行動たるや実に止むに止まれぬ自衛権の発動であつて、東亜の建設、世界の新秩序確保の為、聖なる使命の遂行に外ならぬのである。此聖戦に参加して一死報国を期する皇軍将士の忠勇義烈は、我等銃後の国民として哀心多大の感謝を捧ぐると同時に、銃後の我等、亦最後の血液の一滴までも戦ひて闘ひ抜くの覚悟を以て、所期の目的貫徹に不退転の戮心協力を徹底せしめねばならぬのである。

而して此事変は、固より日支両国間の事柄に属するを以て、如何なる第三国も、容喙干渉の餘地を許さないのである。故に局外者は中立國として其分を守り、神妙に穏やかに傍観してゐればよいのである、然るに奇怪にも、故意に日本を中傷し、世界の日本に対する輿論を悪化せしめんと腐心し、或は武器資料の支給、或は財的援助を敢へてして、抗日政権の支援により支那を利用せんとする第三国の存在を見る。夫はいふまでもなく英國である。

我が南支沿岸監視の眼を掠め、滬口鉄道、粵漢鉄道に依りて武器資材を輸送し、香港に於ては抗日飛行機の組立てに協力し、或は財閥を通じて抗日軍備の強化を支援し、進んでは米國渦中に誘ひ、聯盟を動かし、九ヶ國會議を開き、以て日本を窮迫重圧せんとするものは誰か、是れ悉く英國と称する偽裝敵國の工作である。

然るに、今迄の所では、九ヶ國會議は英國の予想を裏切り、今日（十一月二十二日）其第二回の會議が開かれるのであるが、是亦恐らく英の失望に終り、九ヶ國條約の目的は到底達成し得ないであろう。而して抗日戦線に於ては連戦連敗、唯没落の一路を辿り今や断末魔に喘いでゐるのである。是れが援助に狂奔する英國の焦燥や知るべきのみ、寧ろ氣の毒千萬である。

今次事變の発端は、蘆溝橋と上海に於て勃発されたのであるが、其由てきたところは一朝一夕の事に非ずして、其根源は遠く且つ深く、蔣政権の二十餘年に渉る排日毎日の教育抗日救國の煽動が、世界的轉換期の氣運に乗じて、今日の事態を醸成したのである、今日の事變は当然来たるべき事が来たのに過ぎない。従つて将来再び斯る不祥事の起こらぬよう、東洋永遠の平和確立の爲めに此機会に於て抜本塞源的ノ怪傑を講ぜねばならぬのである。

然るに英國は、抗日政権を支援して、之を戦捷者たらしめやうとは期待しないまでも、少なくとも蔣政権の没落を阻止しようとするのが、其希望であり、目的であり、其行動である。即ち日本が、毎日抗日の迷夢を徹底的に一掃し、以て東亜建設を遂げんとする聖業を妨害し、東洋の安定と平和を徒らに攪乱せんとするものは、是れ英國なりと断言せざるを得ないのである

今や支那は全面的に共產化せんとしている。共產軍と提携してまでも我國に抗戦する蔣政権は、コンミンテルンの走狗と化したのである。英國がこの蔣政権を支援せんとするに至つては我等は其逆行逆施の没義道振りに驚かざるを得ない。事茲に至つては、英國は其好むと好まざるにと拘はらず、東洋の兵禁助長の責を取らねばならぬのである。

共產党は天下の公敵として、之れが撲滅の布陣既に成れる以上、東洋に於て其共產勢の助長に参加せる英國今次の態度は、実に言語同断である。彼日英同盟以来、我が國の示せる信義、世界大戰に於て英の番人として尽力せる我國の功績、夫等をも一朝にして忘れ去りて、蔣政権を支援し、第三敵國の觀を呈するに至りては、其背徳不信の甚だしき、之を口にするも汚らはしく、道義を以て立つ日本としては、この道義没却の國家に對し、其面に唾するも尚嫌らぬのである。

然し此英國の悖徳不信は別としても、英國が東洋平和の攪乱者として、世界の公敵の支援者として、其態度を改悛せざる以上は、当然我等は最後の決心を断行せねばならぬ。我が日本は三十年来の旧誼を重んじ、隱忍持畏ノ自重今日に至つたが、最早これ以上の雅量を示し得ないのである。英國は日本が若し英國と離れたならば、經濟的に忽ち困難するものゝ如く、自惚れてゐるかも知れないが、そんな心配は

無用に願ひたい。我等は、皇道日本の正義の爲めに、この非礼、この不信に對し、徹底的に毅然たる態度を持し、永年の親英態度を一擲し、一大鉄槌を彼れが頭上に加へんと、今日此会を催ふしたのである。

山本の主張は決議文となりて時の首相近衛文麿始め各閣僚に手交された

これ実に親英主義者の耳朵を震恐する晴天の霹靂であつた、國民は之れにより現実の事態を直視し、親英の因習を抛擲し、東亜建設の鴻業に向つて一億一心の團結を爲すに至つたのである。荊棘を闢き雲霧も掃ひ、國民の進路を明示して、其向く処をして誤りなからしむるは先覚者の責任である。山本は実に智力と勇氣とを具備せる正しき指導者であつた。

對英同志会の運動は引続き各地に於て行はれた。十二月十四日には名古屋、十五日は大阪に於て他の同志と聯合演説を爲し、大に反英の氣勢を揚ぐべく、東京よりは山本を始め建川、小林の両中將 本多博士等が出席することになつて居た、

十六年十二月八日 大詔煥發以来の大東亜戦の成績を彼れは地下に何んと見て居るか感慨無量であらう

●民政党縣支部の大会 [十二年十二月十三日]

民政党新潟権支部にては十二年十二月十三日 支部樓上に大会を開き役員の改選は議長 佐藤謙之輔の指名であつたが本郡人の指名されしは左の通りであつた

総 務 松栄俊三

政務調査会副会長 高橋幸吉

顧問 北 吟吉

相談役 本間和平 齋藤八郎平 羽豆太三次 松瀬教五郎 浅香寛

●山本悌二郎 薨去 [十二年十二月十四日]

十二年十二月十四日午後七時四十分 山本悌二郎急逝した

對英問題は全國に鳴り渡り 名古屋にては十二月十四日同市公会堂にて、大阪にては十五日中の島公会堂にて、共に國民大会を開き、山本を始め小林、建川の両中將 本多熊太郎博士出演の約束にて他の三人は十四日已に京地を出発し 山本は大東文化協会の役員會議を終へ午後一時「かもめ」にて出発する予定であつた

此日山本の同町内より出征する兵士ありたれば朝五時祐天寺駅にて見送りて一先自宅に帰り十時頃常に倍する元氣にて目黒の自邸を出で九段の大東文化協会に至り役員会に出席し會議半ばにして名古屋に行くべく玄関を出でて自動車に乗らんとして「どうも気分が悪い」と言はれた、見送りに出た有田理事が手を貸さんとして出せし処「肩を貸せい」と云ふて有田の肩に寄りかかり引返して玄関を入り其脇の応接室に入り腰をかけ「今日はどうも大変に気分が悪い、手が冷たくて感覚がない様だ、掴んで見よ、之れは脳溢血か脳貧血か知らん」と笑ひながら語られたれば有田は「手が冷たくて顔の色が白いから、之れは脳貧血かも知れません」と答へた、すると「ア、そうかも知れん」といふと同時にフラフラとよろけかゝり白い顔は急に蒼白に變つた、有田始め周囲の人々は大に驚き椅子三脚を並べてベットの代りとし水野梅暁の膝を枕として全然意識を失つた 時に午前十一時四十分だ

早速近所の内科医長沢を呼ぶ、丁度會議に出席して居た日大総長 山岡萬之助は日大に電話して二名の医師を招き、變をきいて飯田橋病院長の近藤請吾博士が駆けつける、島倉孝は生前親交のあつた入沢博士へ電話せしも病氣にて来らず、會議出席中の末松階一郎は電話を以て稲田博士の來診を請ひしに脳溢血と断定せられてベットに移した其他 八田善之進博士、藤井博士、帝大内科森助教授等十数名の医師が駆けつ

けられる、米子夫人は急報によって自邸より駆けつけたが嗣子義次、孫宙造、須田春治等は見送りのため東京駅に待ち受けたれ共時間になるも来らざりし故 自宅に電話して始めて此騒ぎを知り文化協会へ駆けつけ種々手当を施したが薬石も及ばず午後七時四十分米子夫人を始め家族近親一同に見守られながら六十八歳を一期として巨星は遂に地に墜ちたのである、遺骸は同九時過ぎ目黒の本邸に運ばれ始めて喪を發した

此時 齋藤長三は所要ありて新潟へ出向き居りたりしに新潟在住の児玉竜太郎より電話にて山本急病の由知らせ来りたれば其夜行にて児玉と共に新潟発車 十五日朝上野駅に着いて逝去されたる由をき、直ちに目黒に抵りて納棺前なりしを以て死顔に面会することを得たれ共 海を隔て、佐渡に居た黨員親戚の上京せるものも着京は十六日の朝なりしを以て面会すること得ざりしは遺憾の極みなりし

此報の伝はるや官界、政界、財界、其他あらゆる天下の名士の弔問引も切らず 邸内の混雑は単紙に尽す処ではないが葬儀に関する諸般の協議を為し、先づ宮内省へ薨去届を提出した

薨去御届

正三位勲一等 山本悌二郎

右ハ昭和十二年十二月十四日脳溢血ニテ薨去仕候間此段及御届候也

昭和十二年十二月十五日

東京市目黒区上目黒五丁目二千四百〇五番地

嗣子 山本義次

宮内大臣 松平恒雄 殿

追テ葬儀式ハ神式ニヨリ来ル十七日午前九時ヨリ同十一時迄青山斎場ニ於テ

相當ミ可申候

尚勅使決差遣ノ際ハ明十六日午後二時ニ御受可申シ候

葬儀委員長以下役員及葬儀次第は左の通りだ

葬儀委員長 (政友会総裁) 鈴木喜三郎

同副委員長 (同幹事長) 松野鶴平

同 (台湾製糖会社社長) 武智直道

同委員 (陸軍大将) 荒木貞夫始め百数十名

其他は省略すれ共本郡より馳せ上りて葬儀に列し役員に加はりたる者は左の通りである

庶務係 児玉竜太郎

会計係 石塚暉孝

接待係 齋藤長三、名畑清次、柴田繁、坪根舒治

葬儀次第

十五日午後六時納棺

同 午後八時移靈祭

十六日午後八時前日祭

十七日午前七時自宅出棺

同午前八時半ヨリ十時マデ 於青山斎場斎場祭

同午前十時ヨリ十一時マデ 一般告別式

畏きあたりでは山本の逝去を聞召され 十六日午後二時勅使として侍従を目黒の私邸へ差遣せられ、幣帛並祭祀料金一封を下賜された

勅使奏迎次第

- 一、十六日午後二時御着（御自動車二台）
- 一、遺族近親者ハ玄関横、一般奏迎者ハ御道筋及玄関外ニ整列奏迎ノコト
- 一、御先導ハ
勅使を第一応接室へ、随員を第二応接室へ御案内ノ事
- 一、喪主、御先導以外ハ
勅使御帰還マデ所定ノ位置ヲ動かザル事

葬儀は十七日午前七時自宅出棺、喪主、家族、近親其他に護られ数十台の自動車にて青山斎場へ向ふた、斎場にては神宮奏齊会々長 今泉定助 祭主となり神式にて厳かに執行されたが、正面には「従二位勲一等山本悌二郎之霊」と書ける弔旗の下に勲一等の礼装に威儀を正せる生前の写真を飾り其周囲には畏くも日独会総裁東伏見宮持恭王殿下並に久近宮家の弔花を始め其他八百餘の弔花花環を飾り向って右側は遺族親戚其他側近者、左側には委員其他列し 正八時半今泉齊主の祝詞に始まり遺族其他の榊捧呈あり次いで弔辞は立憲政友会総裁、衆議院議長、独逸大使、大東文化学院総長、新潟縣人会長、立憲政友会佐渡倶楽部の順序にて本郡倶楽部の弔辞は齋藤長三が代表として左記の通り朗読した 次で千数百名の弔電の披露あり 午前十時葬儀を終り十時より十一時まで是一般会葬者八千餘名の告別式を行ひ東都未曾有の盛葬は生前故人の大人格を表徴せるもの、如く一代の巨人の遺骸は再び自動車にて遺族近親者一同に守られて桐ヶ谷の火葬場に送られた

弔 辞

佐渡政友倶楽部ハ茲ニ謹ミテ総裁従三位勲一等山本悌二郎先生ノ薨去を悼ミ恭シク敬弔ノ意を捧グ
先生少壯ニシテ志を經世ニ致シ衆望を荷ヒテ衆議院議員タルコト十一回前後実に三十余年を超エ其博識達見ト高潔ナル人格ハ政界ノ仰望スル処ニシテ台閣ノ班ニ列スルコト二回郷党以テ甚ダ誇リトナス
我が政友倶楽部ハ常ニ先生ヲ中心トナシ先生ノ指導誘液ニヨリテ能ク今日ノ大ヲナス全党員ノ先生ヲ見ルコト其師父ニ優ルモノアリトナス誠ニ故ナキニ非ズ
今ヤ先生ノ薨去ニ際シ悲痛更ニ尽クル所ナシ然レドモ先生ノ精神ハ全党員ノ心胸ニ深く徹シ郷党ノ父兄子弟ハ良ク其感化ニ副イ永ク其教ヲ失ハザランコトヲ期ス 希クハ以テ瞑セヨ

立憲政友会佐渡倶楽部

昭和十二年十二月十七日

代表 齋 藤 長 三

山本は天性直情経行廉直にして人格高潔 夙に政友会の重鎮として党内に重きを為し名声噴々たるものがあった

又風雅文藻の道に造詣深く二峯と号し漢詩並に書を能くし、支那の書画古美術骨董に於て亦世の定評あり 刀劍の鑑定又一家の風を成した

一時巨萬の富を有し一万数千坪の広大なる邸宅に住し其蔵する書画骨董の如き実に又と得難き珍品のみで其道の者よりは羨望的となつて居た程であつたが晩年政治運動の爲めに家産を傾け広壯なる邸宅及所蔵品は総て売却し上目黒に新居を構へて質素なる生活を営んで居た、

山本の略歴は左の通りである

略 歴

- 一、明治三年一月 山本桂の二男として新潟縣佐渡郡真野村新町に生まる、天性頓悟八歳にして日本外史、日本書紀等を読み、九歳にして大日本史を暗んじた
 - 一、同十三年（十一歳）円山溟北の塾に入る
 - 一、同十五年（十三歳）上京して二条学舎に入り傍ら独逸協会に通学した
 - 一、同十九年（十七歳）独逸協会々頭 品川弥二郎 独逸公使となるに及苦辛懇願の結果、随員となり独逸伯林に留ること一年有半、其後ホーヘンバイム所在の国立農業經濟専門学校に入る、学ぶこと二年、論文「独逸ニ於ケル牛ノ畜養助成ニ対スル國家的処置ト公共的調整ニ就テ」を提出して一等賞を得、我國留学生のため萬丈の気炎を吐く、後ハレー大学、ライプチツヒ大学に入り農政經濟学を先攻す
 - 一、同二十六年（二十四歳）欧州諸国及英國を巡遊す
 - 一、同二十七年（二十五歳）三月ライプチツヒ大学より「フキロソフキエクトル、ポトルム、アルチラムマギステル」の学位を授与される
三月帰朝し宮内省御料局地籍に属する業務取扱を囑託せらる
 - 一、同二十八年（二十六歳）十月仙台第二高等学校教授となる
 - 一、同三十年（二十八歳）六月日本勸業銀行理事となり貸付部鑑定課長となる
 - 一、同二十四年（三十二歳）台湾製糖株式会社創立せらるゝや井上馨侯の知遇を受けて其支配人となり三十七年八月取締役、三十八年常務取締役、四十三年七月専務取締役、大正十年十月取締役会長、兼専務取締役、同十四年十月社長となり尔来同会社を日本一の大会社とし財界に名を為す
 - 一、同三十七年（三十五歳）三月郷里佐渡郡より撰ばれて衆議院議員となり政友会に入り尔来引続き十一回当選す
 - 一、同四十三年（四十一歳）一月糖業聯合会々長となる
 - 一、同四十四年（四十二歳）第二十七議会に於て国定教科書編纂に関して南北朝順逆正統論起るや奮然起つて皇室の尊嚴を傷つけ、教育の根底を破壊せしむるが如き箇所を削除改訂せしめた
 - 一、大正四年（四十六歳）六月糖業の功に依り藍綬褒章を受く
 - 一、昭和二年（五十八歳）四月田中内閣成立と共に農林大臣となる
 - 一、同六年（六十二歳）十二月犬養内閣に再び農林大臣となった
 - 一、同十年（六十六歳）天皇機関説の問題起るや再び奮起して之が撲滅に努力遂に政府をして國體明微に関する声明を為さしめた
 - 一、同十一年（六十七歳）日支事変に対する英國の行動に憤慨し同志と共に對英同志会を組織して東奔西走した
 - 一、同十二年（六十八歳）七月衆議院議員在職三十年以上となりたるを以て院議を以て表彰せらる
十二月十四日名古屋及大阪に於ける對英國民大会に出発前大東文化協会の役員会に出席し將に自動車に乗らんとして突然脳溢血を起し午後七時四十分逝去す
十二月十六日勅使御差遣幣帛及祭祀料を下賜せらる
同十七日特台を以て位一級を追口せられ従二位に叙せられる
同十七日青山斎場に於て神式を以て葬儀を執行した
- 山本に女子一人あり、キヨ子といふ、本郡畑野村石塚惣助の二男義次を嗣となす 亦女子一人なり加寿子といふ 男宙造を迎へて之に配し

挿話二ツ三ツ

昭和二年八月十六日山本が農林大臣となり錦を衣て故郷に帰りし時に稗陵、岩木擴がこんな話しをして居る「王莽ノ正口論ゲー座ヲ驚カス、子ヲ見ルコト親ニ如カズ」

と題して

予が学古塾（円山溟北の塾）を退後六七年なる明治十三年頃である、或日溟北先生を御見舞したのに先生の前に居並ぶ十餘人の学生が何か盛んに議論をして居た、其頃塾内に羽生郁次郎（後に鶴飼といふ）島倉祐次郎等の豪傑連も居た、羽生の云ふには、今王莽の正統非統の論が始って居るが、君は何れの論者かと、予も面白半分正統論に加担した、扱て羽生が正統論を一席述べ終ると、隅の方に居た短小の一少年が之を反駁したのが理論整然たる大議論であつた、予は一驚し敬服して而して正統論の旗色が悪くなったので、予は口に出して、理論は兎も角支那は日本とは違って盜賊が天子になれる國體であるから、王莽も歴代に入るべきであるとやつた、溟北先生は初めから微笑して黙聴して居られたが、此時、口を開かれ、ソナナ國體があるかヨイ年をして少年に言負けたからソナナ暴論を吐くのであらう、と、散々に冷評されて、後は大笑になった、予は羽生に其少年は誰かと問ふて始めて山本悌二郎氏を知り而して他日の大成を期待した、併し当時は薩長が変形政府ともいふべき藩閥政府を作つてゐた時代だから大臣とまでは考へ及ばなかつたが、子を見るは親に如かずとか、嚴父訥齊は其写真に題して

爺之所望其任不輕今日登瀛之実後世鱗閣之名

と書いて居られる、今や氏が錦衣帰郷の時には訥齋翁、溟北先生、鶴飼、島倉の二氏も皆道山に上つたが定めて地下に喜ばれて居ることであらふ、記して歓迎の辞とす

或る新聞に左の記事があつた

大正十二年春、時の摂政宮殿下の御渡台（台湾）に当り、御視察の光栄を携ふた台湾製糖株式会社の本社所在地廉東工場で、内地から殿下に随行した新聞記者団に傲慢だ、横暴だとの激怒を買ふた、同社の専務取締役 山本悌二郎氏は、殿下の御宿所、知事官舎の玄関先で、随行の牧野宮相と出合ながら、自分から帽子をとらうともせず、宮相が「イヤお先に」と脱帽した機会を得た山本氏は極めて軽く答礼したといふので、恐ろしい傲慢な男だと、当時、台湾の記者連が寄るとさわると話しの花を咲かしたものだ

然し此山本悌二郎さんは成金的の威張りやさんではないらしく、相川出身の華族になった益田男爵の倅さん、文学をやる処から、太郎冠者のニックネームがある台湾製糖会社の専務取締役 益田太郎氏を引連れて事業視察に行った時山本さんはゲートルに徒歩で社員に伍しながら、益田氏には車の用意をさせて、恰も伴廻りといった恰好に社員が不審がると、山本さんは例の冷やかな微笑で打消し、俺は百姓の兒だから是れでもよい、梅干と握り飯で沢山だが、益田君は殿様育ちの坊ちゃんだ、徒歩でもさせようものなら大変だ、精々美味しい弁当でも準備してくれと、ここらあたり山本さんの月並の威張屋でもなさそうだと風評とりどり

戦後の財界の強硬襲来に、全世界の事業会社は何れも其あおりを喰ってユラユラして来たことがあつた、どこの会社でも人減らしが始まつた、其時山本さんのいふところが豪儀だ、俺の会社では不用の人間は一人も居ないから今更減らすも駄物がない、併し経費の節減といふ財界不況の際の良港説はケチな株主連には天来の福音だ、決して聞捨てにはしなくて、といふので株主総会席上で例の冷然とした調子で

不用の社員を持たぬ本社では今日淘汰すべき一人の社員もない、併しどうしても人件費からも経費を減ぜよとの株主主君の希望ならば、社員の一人や二人辞めても仕方なからう、小川社長に辞めてもらうことにしませう、そうすれば一人で多くの経費が節減される譯で・・・席上は丸で鉄砲玉を食った鳩の目よろしく、何れも餘りの事の意外に、キョトンとして声もないけれども山本専務の言

はれた一言には一点非難の余地がない真理であった、夫が為め小川社長は退任に決定した
其後社長の欠員であるのは是れが為めで、山本さんが其社長の椅子に進まぬ所に何と味のある話である

此社員淘汰を社長の退任で辛くも救ふた時には社員二千二百名は手を合はせて拜んだものである
今一つイツの事が荒木貞夫が宇都宮市に開催された関京諸縣の在郷軍人大会に講演をされた其時に山本を推賞して

「山本悌二郎氏は満州事変の恩人なると共に上海事変の恩人でもある」

と言はれた由であるが仰も其理由は那邊にあるかと云ふに、前者に対しては

満州事変前の議会に於て若槻内閣の南陸軍大臣が井上緊縮財政に災いされ、其要求せる陸軍機材整備費が暗礁に乗り上るとしつゝ、あつた折、其成立につき山本は政党政派を超越し非常なる尽力奔走の末遂に之を成立せしめた

とのことであるが又後者については

上海事変勃発の当時、農相たりし山本は同じ閣員たりし荒木陸相が高橋蔵相と意見の衝突のため、上海事件費の閣議承認を得ること能はざりし折、之れに対し山本は特別なる斡旋を為し、遂に高橋蔵相の承認を得せしめた

とのことである

著者は荒木陸軍大将に、山本に就いての感想を尋ねし処 左の通りの申越しがありたれば爰に掲げる

山本悌二郎の思出

山本悌二郎氏は政党人として一生を國家の興隆に捧げられた事は知る人の知る処で今更喋々を要せぬ所である

今日でこそ政党人といふと何か時代に逆行せるもの、様にいふが一概に左様に申す事は極めて偏見である、君の如き其根本精神は漢学によりて培はれ 勤皇の精神に於て決して人後にある人ではない、君の残されたる詩文等によりても其一端を窺ふことが出来る

余が君と知りしは満州事変、犬養内閣の時であるが大陸經濟に就いては造詣深く満州建国に際しては常に積極の態度を執り 陸軍予算に就いても終始其成立に努力せられた加之議会に於ても当時は今とし異り尚自由主義の旺盛なりし時であつたが或る時某議員（名を秘す）が軍部に對し其名譽を毀損せるが如き言論を為したる時など隣席大臣席にありし君は奮然として其応酬を余に示唆し軍の名譽を保存するに赤誠を捧げられたる事は今では当然とは申せ 当時の世相に於て君が此闘志と共に如何に國を憂ひ軍の威信が則ち國家の威信たる事に思を致されしかを知るに足るので往事を追憶して感激に堪へぬものがある

又私交に於ては極めて情義厚き中に微塵の野卑なる所なく 而も趣味極めて豊富にして気品あり実に古武士の風格を偲ばすものがあつた、二・二六事件の折の見識など群を抜て居た事を知る

晩年國家の財政整理に当たり一方ならざる苦辛の跡を顧みて涙なきを得ない、君と交友ありまた恩顧を受けたる人士が終に晩年を慰むる能はざりしは遺憾な事で当時の世相の輕浮に一抔の淋しさを感じる 唯、今日尚君を世にあらしめたならば白髪を染めて其經濟の材幹を發揮した事かと考へる時 返すがえすも残念なりとの思が胸に迫るのを覚える

(昭和十八年一月初)

○昭和十三年

●有田八郎の勅撰議員 [十三年二月二十日]

十三年二月二十日 有田八郎は勅選議員となった

●政友派の会合 [十三年三月三十日]

佐渡政友倶楽部にては十三年三月三十日午後一時より 新町行形亭に於て春季総会を開き席上故山本総裁の追悼祭に関する協議をした

出席七十余名坪根幹事長開会の挨拶を為し諸般の報告を終へたる後、総裁の遺骨帰郷に際し党として追悼祭挙行につき東京山本会と交渉の顛末を報告し、座長に齋藤長三を推して協議に入り、総裁の出生地たる真野村単独の追悼祭を執行する由なれば之れと合同するの可否を打合はせ交渉の爲め名畑清次、柴田繁、金子徳次、児玉竜太郎の四人を委員として真野村と交渉なさしむることゝした

翌三十一日右四名の委員は真野村の委員六名と会見し種々協議の上 舉郡的追悼祭と為さんとの意見を出せるものありて本間要を始め各種団体の協賛を得て愈々国家的偉人山本悌二郎の盛大なる追悼祭を催ふことゝなりて各新聞に左の廣告を出した

廣 告

謹啓春暖之候各位益々ご清適之段奏度賀然陳候 来る四月十四日午前十一時より真野村尋常小学校に於て故元農林大臣従二位勲一等 山本悌二郎閣下の追悼祭執行を致候間御参列相成度此段御案内申上候也

昭和十三年四月十日

真野村

佐渡支庁長

佐渡郡教育会

佐渡郡青年団

帝國在郷軍人会佐渡聯合分会

佐渡実業団体聯合会

立憲民政党佐渡倶楽部

立憲政友会佐渡倶楽部

●山本悌二郎 無言の帰郷 [十三年四月十二日]

山本悌二郎の遺骨は未亡人米子、嗣子義次、孫宙造、及有田八郎夫妻、島倉孝、佐野忠吉、須田春治等に護られて十三年四月十一日午後十時三十五分上野駅出発、十二日午前七時三十分新潟駅に着するや松木弘、小柳調平、相沢成治、児玉竜太郎其他数十名の新潟有志者及佐渡よりの出迎ひの齋藤長三、名畑清次、柴田繁等出迎ひ、更に新潟埠頭にては多数新潟有志者に見送られ第八佐渡丸にて出発し両津港に着すれば、佐渡の生める偉人、一代の政治家、衆議院議員たること十一回、憲政恢弘の巨人として廟堂に椅子を持ちしこと二回、兄弟大臣の一人であった国士、晩年対英問題を掲げ全國を遊説し、切烈なる論鋒を以て摺伏せしめ、倒れて後已むの気魄と、豪宕にして高邁の見識を有する、元農林大臣従二位勲一等 山本悌二郎の無言の帰郷を迎へんと、茲に集まる各方面の人々二千余名、河原田青年団は特にプラス、パントを動員して行ひし莊嚴なる哀悼奏樂裡に上陸するや佐渡支庁長 本間要は二千有餘名の出迎者を代表して、遺骨を迎ふの辞を述べ、嗣子義次の之れに対する答札の謝辞ありたる後、十数台の自動車を連ねて新町に向ひしが、山本悌二郎の今日の帰郷は白布に覆はれし尺立法の匣中にありて黙々一語なし、人生の無常迅速を伝ふて餘りあり、遺骨を護りて来れる人々、之を迎ふる全郡有志者の感慨果して如何なるものありしか 別邸に着するや一般の焼香を受けて一夜の宿りを名残りとし翌十三日は親戚縁者のみにてしめやかに山本家代々の墓地に納骨した、一寸息絶えれば萬事休す噫

●山本悌二郎の追悼祭 [十三年四月十四日]

四月十四日此日絶好の小春日和にて全村各戸も半旗も悲しく、今は亡き郷土の偉人に心からなる哀情を捧ぐべく郡内遠近より集まりたる参列者約二千人と注す 式場祭壇には元農林大臣従二位勲一等 山本悌二郎君之英霊と認めて掲げ其側には遺族親戚、左側には発起人側の人々の居並ぶ中を十餘名の神官によりて、儀式は始められ、新潟縣知事 関屋延之助、民政党新潟縣支部長 野沢卯市、政友会新潟縣支部 松木弘、各代議士其他より寄せられたる多数の弔電を披露し、次で山田真野村長、本間佐渡支庁長、伊藤郡教育会長、新潟新聞記者代表、□□郡町村長会長、山田軍人分会長、金子郡青年団長、名畑郡実業聯合会長、島倉真野小学校校長、石井四山及び、山本政界乗り出し当時の友人として唯一残り居る齋藤長三等の弔辞朗読ありて今更ながら故人への哀情をそそり参列者並に遺族の涙新たなるものがあつた、猶当日は昨年十一月二十二日日比谷公園に於ける排英國民大会に於て為したる演説（對英同志会の条にあり）をレコードに依て一般参列者に聴かして一入涙を誘ふことゝなつた、斯の如くにして午後三時過ぎに式は終つた猶遺族親戚の一行は、見送りの親戚黨員等に名残りを惜しみつゝ、十七日午前の汽船にて退郡した

●有田八郎の歓迎会 [十三年四月十四日]

元外務大臣 有田八郎は実兄 山本悌二郎の遺骨を携へて帰省せるを好機とし 四月十四日午後真野公会堂に於て有志歓迎会を催ふせしに出席二百余名、発起者総代として佐渡支庁長 本間要の歓迎の辞、真野村長 小田廣吉の祝辞に次で有田の謝辞を兼ねて非常時局下に於ける我國外交の動向に関する講和ありて多大の感動を與へて宴に移り 紅裙の酒間斡旋に時の過ぐるを忘れ、最後に有田の萬歳を三唱して散会したのは落暮迫る頃であつた

●佐渡タイムスの廃刊 [十三年五月三十一日]

政友会の元縣會議員 中川十左衛門の経営しつゝあつた日刊新聞佐渡タイムスは十三年五月三十一日を以て廃刊し 中川は六月一日両津警察に出頭して、正式廃刊の手續きを了し新聞人として最後の挨拶を交して退署したが、中山は曩に大阪、東京方面の取引先を視察の結果、大なる自信を得たるものゝ如く、新聞事業を廃し、本業たる佐渡名産竹細工の大量生産に拍車を掛け実業界に活躍することを声明した

●本間雅晴の昇進 [十三年七月十五日]

本郡出身の陸軍少将 本間雅晴は十三年七月十五日陸軍中將に昇進した

●嵐城治作 死去 [十三年七月二十七日]

佐渡政友倶楽部の一員として幹事長ともなり 党務は勿論、真野村々政にも夫々力を尽せしたる同人は十三年七月二十七日 五十二歳を一期として北海道岩内の旅館にて急死した、惜しむべきの極みである

●有田八郎 再び外務大臣となる [十三年十月二十九日]

曩に十一年三月九日廣田内閣成立の後外務大臣となりし有田八郎は十三年十月二十九日近衛内閣に入りて再び外務大臣となつた

●政友倶楽部の秋季大会 [十三年十一月三十日]

佐渡政友倶楽部にては東亜再建運動大講演の爲め政友会本部より本郡へ出張中の拓務參與官代議士 山本

芳治及新潟支部より特派の相沢成治を迎へて十三年十一月三十日午後三時より相川町寿志嘉亭に於て秋季大会を開きしに來会者八十名、坪根幹事長開会の辞を述べ次で齋藤長三を座長に推し左記宣言を可決したる後

総裁後任問題は目下幹部に於て協議中なれば今しばらく仮口に時日を以てせられ度従つて役員の改選も共に延期することにしたし

と、述べしに満場威儀なく承認して議事を終り、相沢成治起つて、政党再生の必要と官僚爆撃の熱弁を揮つて黨員を激励して六時閉会し直ちに別席に於て懇親会の宴を開き兒玉竜太郎の開会の辞に対し山本芳治の謝辞あり非常の盛会にて八時散会した

宣 言

時ハ是レ内外非常ノ秋、皇国百萬ノ出師ハ総軍萬里正義ノ大旗ヲ掲ゲテ今ヤ南北中支ニ赫々タル戦果ヲ収メツ、アルニ対シ、銃後又國ヲ挙テ戮力総動員、東亞再建ノ大偉業ニ向ツテ夙夜精勵シツ、アリ、此非常ノ局ニ際シ我等又斯立場ニ於テ廟議ヲ翼賛シ民意ヲ鼓舞シ以テ政党ノ本義ニ維レ新タナランコトヲ要ス、即チ之ヲ外ニシテハ聖戰本来ノ目的タル赤色魔ノ淵叢ヲ根絶シ、排日党軍ノ覆滅ヲ図リ以テ世界ノ平和ト東亞ノ新秩序ヲ招來センコトヲ期スベク、之ヲ内ニシテハ銃後ノ安定ト長期經濟戰ノ難關ニ処シテ未ダ一刻モ晏如タルヲ許サザル状態ニアリト云フベク、此時ニ際シ計ラズモ故総裁ノ令弟 有田新外相ニヨリ人類史上ニ輝ケル巨歩ヲ印セル防共盟約ヘノ発足ハ、誠ニ我等郷党ニ與ヘラレタル偶然ニシテ而カモ幸福ナル天來ノ啓示トモ云フベシ

即チ我等其意ヲ體シ、廣ク中外ニ炳乎タル東亞ノ大道ヲ宣示シ、無比ナル皇軍ノ威武ヲ發揮シ、仍テ以テ上聖明ニ副ヒ奏リ、下萬胞ト協力、相共ニ携ヘテ断乎時難ノ克服ニ当ラント欲ス

政党維新ノ秋、茲ニ黨員一致團結其力ヲ新タニシテ而カモ尚飽迄モ立憲ノ大義固守シ以テ政党本来ノ使命タル憲政ノ暢達ニ向ツテ驀進センコトヲ期ス

右宣言ス

●山本悌二郎の慰靈祭 [十三年十二月十日]

神宮奏齊会々長 今泉定助、陸軍中將 建川美次、貴族院議員 宮田光雄等二百四十余名の發起にて十三年十二月十日上野精養軒に於て山本悌二郎の慰靈祭を催ふす、來賓として山本義次、有田八郎等を始め會員五百余名にて神式に依て祭典を行ひ 次で委員長 今泉定助の挨拶、枢密院副議長 原嘉道、元駐独大使 本多熊太郎、貴族院議員 小久保喜七、國民同盟総裁 安達謙蔵、貴族院議員 菊地武夫等の追悼の辞に、有田八郎の謝辞があつて、一同食堂に移り故人を偲ぶの談話等あつて午後五時散会した

此慰靈祭に就ては佐渡多数の有志の処へも照会があつたけれ共 聊か行違ひの義あつて何れも回答を為さざれば佐渡在住の者にして發起者と名前を連ねたるは葛西肇と齋藤長三の二人で 慰靈祭に出席せるは齋藤一人であつた、誠に遺憾千萬であつた

●佐渡に於ける山本の追悼会 [十三年八月二十八日、十二月十四日]

佐渡に於ては佐渡能楽俱樂部が故人山本の遺徳を尊重し 十三年八月二十八日金沢村農會堂に於て仏式の慰靈祭を行ひたるに部員を始め最寄黨員等會する者五百余名僧侶の祭式終るや會主側を代表して天田正右衛門の挨拶に次で四五の追悼文の朗誦あり 一般焼香を終へたる後正午より追善能を催ふしたが其の番組は左の通りであつた (能楽は瀧上派)

嵐 山 田尻利雄 梅本之雄
巴 川上三吉 村田忠作

隅田川 高野幸吉 間 幸蔵
清 徑 本間 熙 菊地 汎
殺生石（半番） 野村 諭
黒 塚 渡部英一 渡部清一

真野村にては十三年十二月十四日午前十一時より真野会館に於て神式に依て慰霊祭を行ひしに参会者三百余名、定刻齋主 真木山宮司の祝詞、真野村長の祭文、尾畑與三作、金子徳次、其他二三の追悼文朗読ありたる後 玉串を奉典して式を閉じ、同所にて直会を催ふして故人の遺徳を偲びて数番の演説もあった午後二時よりは西三川派の追善能を催ふされたが其番組は左の通り

番組

海 人 杉本栄太郎 若林米蔵
羽 衣 佐々木國松 中島晴好
羅生門 知本幾蔵 中島晴好

●新潟に於ける山本の追悼会 [十三年十二月二十一日]

郷党の偉材 山本悌二郎の逝いて一年、感慨深き此秋、政友会縣支部の主催にて十三年十二月二十一日午前〇時十五分より白山神社々務所に於て山本の慰霊祭が行はれた、参列者は中村知事、柳井総務部長、民主党支部佐藤総務を始め 政友会員及生前山本と親交ありし人々二百五十余名、定刻奏楽裡に一同着席し齋主 小林宮司の祝詞、祭主松木代議士の祭文、民主党支部長の祭文、に次で中村知事以下、玉串の奏典ありて山本義次よりの謝電披露を以て式を終り、市公会堂に於て直会を開き故人の思ひ出などを語り午後二時散会した

○昭和十四年

●第三十六次平沼内閣成立 [十四年一月四日]

近衛内閣は十四年一月四日首相官邸に於て初会議を開催し、事変新段階に処する根本刷新と民心の革新を図る為め総辞職を為すこと、決定し 午前十一時三十分近衛首相は宮中に参内、辞表を捧呈せしに後継組閣の大命は直ちに平沼騏一郎に降下したれば五日午後閣員名簿を捧呈し午後七時三十分親任式が行はれた

内閣総理大臣	平沼騏一郎	外務大臣	有田八郎
内務大臣	木戸孝一	大蔵大臣	石渡桂太郎
陸軍大臣	板垣征四郎	海軍大臣	米内光政
司法大臣	塩野季彦	文部大臣	荒木貞夫
農林大臣	櫻内幸雄	商工大臣	八田嘉明
逓信大臣	兼 塩野季彦	鉄道大臣	前田米蔵
拓務大臣	兼 八田嘉明	厚生大臣	廣田久忠
無任所大臣	近衛文麿		

我が有田八郎は三度外務大臣となつた

●佐渡政友倶楽部春季総会 齋藤長三初代会長となる [十四年五月五日]

政友倶楽部にては新潟縣支部代議士 松木弘を迎へ十四年五月五日午後二時より新町行形亭に於て春季総

会を開き 坪根幹事長開会の挨拶を為して齋藤長三を議長に推し、総裁制の規約を変更して会長制となすの規約改正案を提出して説明を加ふれば満場異議なく之を可決し引続き宣言及決議を決定したる後役員選挙に移り 会長選挙に就ては詮衡委員等の説もありたれ共 柴田繁より、齋藤長三を以て初代会長とすべしとの説出で、満場之れに同意して直ちに決定し、他の役員は、加藤平蔵、葛原吾市、豊田俊介、長島善一郎、山本治作の五名を委員に挙げて詮衡せしむること、し、夫より松木代議士、児玉縣議の激励演説あつて五時閉会し、一同打揃ふて山本前総裁の墓前に詣で、規約改正其他の状況を報告し帰って行形亭にて懇親会を催ふし薄暮散会した

宣 言

本倶楽部総裁山本先生逝イテ一年有半ニ垂ントス、時局ハ一層ノ緊張ヲ告ゲ、故総裁ノ遺命更ニ重キヲ示シ、感慨軋切ナルモノアリ、曩ニ欧州事変ノ起ルヤ、故総裁山本先生蹶然起チテ対外硬論ヲ主張シ、当局ヲ鞭撻シ、内外ノ革新ヲ唱ヘ特ニ國體明微ヲ叫ンデ天下翕然トシテ之レニ從フ
次日支事変起ルヤ先生亦起チテ対英強硬外交ヲ唱ヘテ國論ヲ喚起シ、漢口進撃ヲ揚言シ更ニ廣東ノ攻略ヲ叫ブ、東奔西走真ニ席温マルコトナキニ、中途卒然トシテ斃ル、洵ニ皇國ノ恨事タリ
其後事変ノ推移尽ク先生ノ明察ニ副フ、先生ノ出所行動ハ皆是レ國民ノ規範タラザルハナク、政党ニ与フルモノニ對スル垂訓ナラザルハナシ
本倶楽部、総裁ノ遺訓ヲ體シ、政党ノ使命ヲ重ンジ、憲法政治ノ發達ト國運ノ隆昌トヲ祈念シ、時局益々多事ナルノ際、相共ニ携ヘテ一意奉公ノ至誠ヲ致サントス
右宣言ス

決 議

- 一、 國體明微ノ精神ニ從ヒ歴史的遺跡尊重ノ思想普及ニ努メルコト
- 一、 銃後ノ護リヲ益々硬ムルタメ官僚的繁文褥礼ノ弊ヲ除キ官民ノ協力ヲ容易ナラシムルコト
- 一、 観光ノ設備ヲ充備スルト共ニ、観光施設ノタメニ、地方農村ノ美風ヲ破壊スルガ如キ事ナキ様留意スルコト
- 一、 政党ノ使命ヲ重ンジ自肅自戒以テ他ノ侮リヲ防グニ努ムルコト

会 則 (改正ノ分)

- 第一条、 當倶楽部ハ立憲政友会佐渡倶楽部ト称シ佐渡郡ヲ区域トス
- 第二条、 當倶楽部事務所ハ幹事長宅ニ置ク
- 第三条、 當倶楽部ニ左ノ役員ヲ置キ任期ヲ一ケ年トシ總會ヲ以テ選挙ス
会長一名 副会長一名 総務若干名
幹事長一名 幹事二十五名
- 第四条、 當倶楽部ニ顧問若干名、相談役若干名ヲ置キ役員会ヲ以テ之ヲ推薦シ任期ヲ付セズ
- 第五条、 会長ハ倶楽部ヲ統理シ副会長ハ会長ヲ補佐シ会長事故アルトキハ之ヲ代理ス
- 第六条、 當倶楽部ハ統制上町村単位トシ各町村ニ支部ヲ設ケ左ノ役員ヲ置ク
支部長一名 幹事、評議員、各若干名
- 第七条、 幹事長ハ会務一切ヲ処理ス
- 第八条、 當倶楽部ノ經費ハ黨員ノ寄附ニヨル

●政友倶楽部の委員会 [十四年五月十四日]

佐渡政友倶楽部にては十四年五月五日の春季總會に於て会長制を採用し初代会長に齋藤長三を推挙したが他の役員は詮衡委員に一任しありしが五月十四日午後二時より新町山本旅館に委員会を開催し委員五

名の外齋藤会長、児玉県議、坪根幹事長、出席して左の通り決定散会した

副会長 金子徳次

幹事長 坪根舒治

常任顧問 柴田繁

総務 梶井五郎右衛門 佐藤一平 本間瀬平 菊池市左衛門 長島善一郎

神主甚久郎 本間佐久治 鳥井嘉市 宇留間多郎次 松村小八

顧問 寺島善四郎 葛西肇 河原治一 水谷松次 本間芳太郎 中川熊蔵

北条欽 中川十右衛門 高野宏策

●政友会新潟縣支部 分離の兆見 [十四年五月三十日]

十四年五月十六日政友会新潟縣支部にては幹部会を開き、本部の騒動を中心として対策を協議したが甲論乙駁容易に議論の一致を見る能はず

然るに来る三十日には鳩山派の総会あれば代議員を出席せしむるや否やに就き、松木弘は参加せんと主張せしに鈴木義隆、武田徳三郎は静観説を唱へて茲に両派對立し支部分裂の兆候を示すに至った

●立憲養正会総裁の来郡 [十四年六月二十日]

立憲養正会総裁 田中澤二は執事長以下首脳部を伴ひて十四年六月二十日渡来し真野御陵を参拝して、小木、相川等に宿泊し二十二日退郡した

立憲養正会は、天皇政治確立を絶叫し日本國體開頭を目的とする新興政治団体である

●北吟吉の渡欧 [十四年八月～十一月十七日]

本郡選出民政党代議士 北吟吉は十四年八月より約三ヶ月の予定を以て、ジュネーブに開かる、萬国議員総会に日本の代表として民政党より撰ばれ出席したが、会議終へるや欧州各地を視察し十一月十七日午前十時横浜へ帰着した

●第三十七次阿部内閣成立 [十四年八月三十日]

平沼内閣は十四年八月二十八日閣議を開き

平沼内閣は今春一月近衛内閣退陣後を承けて以来、総親和、総努力をモットーに専ら事變の処理に当たったが、同内閣が案を練りつゝ、あつた對欧策が独ソ不侵条約成立に依て出直さざるを得なくなると共に国際現勢が複雑多岐を極める状態にある際、人心を一新たなる構造を得るには総辞職にあり

として閣僚の辞表を取り纏めて即時参内捧呈したれば後継内閣組織の大命は同日午後八時二十分陸軍大将 阿部信行に降り三十日午後一時親任式を行ふた

内閣総理大臣	阿部信行	外務大臣	兼 阿部信行
内務大臣	小原 直	大蔵大臣	青木一男
陸軍大臣	畑 俊六	海軍大臣	吉田善吾
司法大臣	宮城長五郎	文部大臣	河原田稍吉
農林大臣	兼 伍堂卓雄	商工大臣	伍堂卓雄
逓信大臣	永井柳太郎	鉄道大臣	兼 永井柳太郎
拓務大臣	金光庸夫	厚生大臣	秋田 清
企画院総裁	青木一郎		

●中川健蔵 大日本航空株式会社総裁となる [十四年八月二十一日]
本郡出身の元台湾総督 中川健蔵は十四年八月二十一日大日本航空株式会社総裁に就任した

昭和十八年十一月一日 (非売品)
新潟縣佐渡郡二宮村大字石田八十四番戸
著作兼印刷発行者 齋藤長三